

公開講座「総合2025」第24回講演

共事者として考える社会と「わたし」

1/8

木

13:00～14:30 (3限)

＠津田塾大学 小平キャンパス 特別教室

講演者

地域活動家

小松理虔 氏



プロフィール

地域活動家。1979年福島県いわき市小名浜生まれ。報道記者、日本語教師、かまぼこメーカー広報などを経て2015年に独立し、地域活動事務所「ヘキレキ舎」を立ち上げ。地元の商店街でオルタナティブスペースを運営する傍ら、地域の医療、福祉、食、文化芸術などのテーマでさまざまな地域活動・執筆活動を行っている。『新復興論』で第18回大佛次郎論壇賞。いわきの地域包括ケア「igoku」でグッドデザイン金賞。

担当スタッフより

みなさんは、「共事者（きょうじしゃ）」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？この言葉は、福島県を拠点に活動されている小松さんが、東日本大震災を経て、新しく作り出した言葉です。「共事者」とは、当事者の存在を大切にしながら、その周りにいる人々、つまり「どこかで当事者であり、どこかで当事者ではない」という立場の人々も、事を共にしている、という意味を表しています。そして小松さんは、この言葉を通して、当事者性の度合いの大小に関わらず、それぞれが今いる立ち位置から、考えたり、語ったり、行動したりすることを、提案しています。小松さんのご講演が、私たちと、災害や社会問題、身近な出来事との関わり方、距離感について考えるきっかけとなれば嬉しいです。